

## 会長挨拶 清川 謙三

私たち東大の卒業生は、旧制高校出身者の例に見るごとく、卒業後も高校別の絆が強く、特に全学的同窓会の必要性は薄かったものと思われます。

しかし、戦後の学制改革によって新制高校出身の方も多く輩出しており、関係者の間からは、卒業生の親睦と連帯を図る意味からも、何とか東大にも、一橋の如水会、早稲田の稻門会、慶應の三田会のような暖かい同窓会を作つて迎えてほしいという要望も高まってきました。大学当局も同窓会組織の育成強化に理解を示し、そしてこれに呼応するかのように平成元年4月、全学同窓会として『銀杏会』本部が呱呱の声をあげたと聞いています。

神奈川銀杏会も、皆様方のお骨折りにより、平成5年12月、銀杏会本部のご支援のもと、本学から吉川弘之総長をお迎えして設立総会を開催してからまもなく満3年を迎えようとしています。

このたび、銀杏会本部は、明年の五月祭を目途に発展的に解消し、新たな連合体組織に向けて出発しようとしており、各支部銀杏会は、それぞれ独立して組織強化を図っていくことになりました。したがって、神奈川銀杏会も、本年度から組織の強化を図り、従来の本部に代わり年会費を徴収するとともに、各種行事のお知らせを兼ねて『会報』を発行し、皆様のご期待に添いうるよう努力していくことになりました。皆様の一層のご支援とご協力をお願ひいたします。

なお、神奈川銀杏会のさらなる発展のため、皆様方からの新鮮なご提案をお待ちしております。



清川謙三 会長

### 神奈川銀杏会役員名簿 平成8年8月(現在)

会 長	清川謙三 (14医)	神奈川鉄門会会长、清川病院理事長
副 会 長	桶本正夫 (24法)	神奈川新聞社相談役、元同社長
(あいうえお順)	川本謙次 (26医)	横浜商工会議所副会頭、川本工業(株)代表取締役会長
	佐藤昌之 (25工)	(株)みなとみらい21代表取締役社長、元横浜市助役
	曾山皓 (24法)	元神奈川県副知事
	田中敬 (23法)	横浜銀行相談役、元同頭取、元大蔵事務次官
	高橋弘篤 (20法)	本四連絡道路管理協会名誉会長、元建設事務次官
	竹本浩 (23法)	横浜白線会代表幹事、横浜信用金庫会長
	森英雄 (26法)	森法律事務所、元横浜弁護士会会長
代 表 幹 事	原正義 (24工29法)	(株)神奈川道路サービス代表取締役会長、元神奈川県副知事
副 代 表 幹 事	鶴見俊一 (23工)	元横浜市技監、交通局長、港湾局長
	橋本静代 (32理)	東海大学理学部名誉教授
	石原寛 (35経)	神奈川県経営者協会専務理事
監 事	平賀孝 (24法)	日本ユネスコ協会連盟理事、元第一勵業銀行常務取締役
	渥美精一 (32経)	神奈川県総合リハビリテーションセンター長、元神奈川県教育長

## 神奈川銀杏会誕生の記

鶴見 俊一 (23工)

平成4年5月のある日、銀杏会本部の代表幹事をしている川村皓章さん(S23工)から神奈川にも東大全学同窓会を作りたいので協力してもらいたい、と要請を受けたことから始まる。何はさておいても、来る5月11日の銀杏会総会に出席してもらえば事情がわかるというので、とにかく出席した。

当日は、大河原良雄元駐米大使(S17法)の「世界の動きと日米関係」と題する記念講演があり、引き続き懇親会に移り、出席された有馬朗人総長(当時。S28理)から、次のような挨拶があった。

銀杏会がこのように盛大に開かれたことを心からお祝い申し上げる。実は先年、東大百年祭の記念事業に当たり、同窓生各位に寄付を募ったところ、皆様方のご努力にも拘らず、百億円の目標に対して大幅な未達に終わったのに比して、某私立大学の場合は百数十億円が集まつたと聞き、今更ながら東大同窓会組織の弱さを痛感した。一方、旧制高校の卒業生が減少していく中で、今の若い人たちは東大を頼りにしている者も増加してきており、大学当局としても同窓会組織の育成強化に協力していきたい。

以上のようなことから、銀杏会幹部としては、平成3年には千葉銀杏会を発足させ、今年は是非とも神奈川を組織したいということであった。

そこで、思い当たる数人の有志に声をかけてみた。一部に今更作る必要もないという意見もあったが、大学当局が積極的に支援するというのならば応じるべきであるという意見が大勢を占めた。7月1日、設立準備のために最初に集まつた面々は、地元から石原寛(S35経、神

### (神奈川銀杏会役員つづき)

幹事兼事務局長 佐藤 修身 (51法) SOS法律事務所弁護士

事務局所在地: 郵便番号231 横浜市中区木町4-43 横浜三菱商事ビル7階 SOS法律事務所内

TEL 045-201-6431

幹事 事務局 松永 裕 (57法) 神奈川県都市部都市計画課主査

広 報 草間 俊郎 (32教養) 神奈川県立栄養短期大学教授

牧 葉子 (50工) 川崎市都市整備局新川崎地区整備室主査

開幕同好会 川井利長 (23工) 神奈川大学工学部教授

伊藤 勤 (23工) (株)ダイナミック顧問、元大成建設(株)

石井 満 (34文) 横浜港はしけ運送事業共同組合顧問

ゴルフ 木内 政銳 (23工) 桂ヶ丘開発(株)相談役、元運輸省第一港湾建設局長

篠原 靖治 (35経) かわり商事(株)会長

旅 行 後藤 仁 (39農) 神奈川県立公文書館長

斎藤 正勝 (42工) 横浜市港湾局港湾整備部長

朝 食 会 中島 敏 (31教) 横浜新都市センター(株)常務取締役

生山 智己 (52経) 日産自動車(株)法人市場開発部主事

奈川県経営者協会常務理事)、川本譲次(S26医・横浜商工会議所副会頭・川本工業(株)代表取締役社長)、佐藤安平(S26文、横浜市土地開発公社理事長・元横浜市助役)、鶴見俊一(S23工、東亜建設工業(株)顧問、元横浜市技監・交通局長・港湾局長)、原正義(S24工S29法、神奈川県道路公社理事長・元神奈川県副知事)、森英雄(S26法、森法律事務所・元横浜弁護士会会长) [以上五十音順、職名は当時]及び銀杏会本部から金勝登組織委員会委員長ほか数名が参加した。

まず、組織を作るうえから発起人を広範囲にお願いしようということになり、各旧制高校の同窓会から代表者、そして横浜の主な企業からもしかるべき人を、ということで、その後、横浜白線会(寮歌祭の各校連絡会)代表幹事の竹本浩さん(S23法、横浜信用金庫理事長)ともご相談し、各高校の委員の方々をご紹介いただいた。また、原さんからは、横浜銀行頭取の田中敬さん(S23法、元大蔵事務次官)のご推薦をいただいた。

当時、桶本正夫さん(S24法、神奈川新聞社社長)は独自の立場で、同窓会組織『赤神会』(会員約45名)を作つて活動しておられると伺い、桶本さんにもおめにかかり、事情を説明し、新しく同窓会を作ることについてのご協力とご了承を得た。

さて、その後数回の会合を持って、世話人30人も決定し、会長候補には清川謹三先輩(S14医、清川病院理事長・神奈川鉄門会会长)をと、順次態勢も整い、いよいよ設立総会を開催できるところまで進展した。しかし、折角の設立総会でもあり、大学当局も同窓会の組織強化を支援するということなので、現東大総長にもご出席いただいたらどうかという意見になり、川村本部代表幹事ともご相談し、明春には総長の出席をお願いして設立総会を開催しようということになった。

ところが、平成5年春は東大総長の改選期に当たり、その上院内の選挙により総長が推薦されるため、有馬朗人総長もなかなか多忙を極め、身動きできない状況と伺い、「設立総会を急ぐ必要はあるまい。総長に出席してもらえるならば、それまで待ってもらってもよいではないか」という結論に達し、改選後に改めてお願いしようということになり、設立総会の時期はさらに遅れることとなった。

平成5年5月24日、本部銀杏会の第9回総会が、御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催され、吉川弘之新総長が出席されるという報が入り、

神奈川としてもこの機会にと、清川謹三、  
原正義、鶴見俊一の3名が会場に赴き、本部役員の方々のご協力を得て、懇親会前に吉川新総長におめにかかり、神奈川銀杏会設立総会への出席方についてお願いし、やっと総長の快諾を得ることができた。しかし、日取りについては後ほど連絡ということで、またまたこれが、後の心配の種となつた。

7月26日、世話人30人と本部組織委員とが一堂に会し、今後の方針について協議し



神奈川銀杏会第2回懇親会の様子

た。協議事項は、(1)総会の日時について、早急に吉川総長の日程を取ってもらうよう川村代表幹事と連絡をとる。(2)懇親会費は1万円くらいが適当で、会場はそれに合わせる。(3)会場は、出席者数を上限千人(通知は約1万人に出す)とみて、横浜ロイヤルパークホテルニッコー(ランドマークタワー)、ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル、パシフィコ横浜の会議センター、新都市センター9階ホール、以上の4会場から選ばねばなるまい。どうしても会場が取れない場合は、やや狭いがホテルリッチ5階ではどうか。(4)発起人の数を世話人30人を増員して百人程度とする。(5)事務局をSOS法律事務所の佐藤修身さん(S51法)にお願いし、出欠席返信の受取、整理もお願いする。以上のようなことが確認された。

秋になってやっと、吉川弘之総長と林健太郎銀杏会会长(S10文、元東大総長)の日程が固まり、会場の交渉となつたが、会場もなかなか空きが少なく、結局年末までずれこみ、12月16日となってしまった。年末のこととて出席者数が心配であったが、この機会を逃すと、再度、総長のご出席をお願いすることは難しいと判断して、同日午後6時からヨコハマグランド インターコンチネンタルホテルで、初回の総会・懇親会を開催することに決定した。

何しろ初めてのこととて、何人集まるか見当もつかない。400人程度ならディナー形式で、千人程度なら立食形式で、それ以上になったときはロビーも使用するという対応まで検討した。

案内状は、12,000部用意し、世話人を中心に若手の同窓生も動員して、総勢15名が秋の休日を返上して、ほとんど一日がかりで、案内文・返信葉書の封筒詰め、宛名シール貼りを行った。

返信期限の11月20日が待ち遠しかったが、年末の多忙な時期でもあり、申込者数は当初の期待に反して230名にとどまり、今後短時間ではあるが300名を目標に積極的に勧誘することとし、ホテル側とは一応300名として会場準備を進めることとなった。

しかし、その後申込者もある一方、取り消しを申し出るものも多く、当日の寒さも手伝って、出席者は192名にとどまり、収支会計は大幅な赤字になってしまった。このため、心ならずも無断欠席した方々には会費を納入していただくようお願いし、なお不足分は幹事が立て替え、赤字を翌年まで持ち越す結果となった。

それでも、東大総長をお迎えして神奈川で最初の同窓会が開催できた喜びはまた一人のものがあった。しかも、総長にはランドマークタワー70階のスカイラウンジの2次会にもご出席いただき、誠に感謝に堪えません。

神奈川銀杏会発足に当たり、親身になって時間と労力を提供してくださった清川会長、原代表幹事ほか、役員、幹事の皆様、そして世話人、発起人になって下さった方々に心から敬意を表しつつ『神奈川銀杏会誕生の記』を終える次第である。

